



初心者からマニアまで使える

ホール、TV、ラジオなどだけではなく
地域で落語会が開催されるなど
身近な存在となりつつある落語を
より楽しむための事典

落語 演目・用語事典

稲田和浩 編

A5・380頁 定価(本体8,000円+税)
ISBN978-4-8169-2861-1

2021年1月刊行

2020.12

演目の内容、言葉、 タイトルを調べる

●落語の梗概、解説、登場人物、フ
レーズを知る「演目事典」、落語に
出てくる言葉を調べる「用語事
典」、若旦那、船頭などのキーワ
ードから演目を調べる「キーワー
ードからなる事典」です。

●落語の歴史、落語を楽しむために
はどうすればいいかなど、解説付
き。

古典から新作まで対応

●古典落語だけではなく、昭和から
平成のはじめくらいまでに作られ
よく演じられている新作落語、東
京で頻繁に聞くことのできる一部
上方落語をあわせて六百三十三席
とりあげました。

目次

解説
落語の歴史
寄席とは
江戸と上方
演目事典
落語・寄席用語
用語事典
キーワード索引

【編者略歴】

稲田 和浩 いなだ・かずひろ

東京都品川区出身。日本大学芸
術学部演劇学科卒業。一九八六
年頃より、浪曲の台本を書き始
め、その後、落語、講談などの
台本、邦楽の作詞などを手掛け
ようになる。現在、協同組合
日本脚本家連盟演芸部副部長、
文京学院大学外国語学部非常勤
講師(芸術学)。演芸台本のほか、
小説、浅草喜劇の脚本、演出も
手掛ける。
主な著書に「女の厄払い」(祥伝社
/二〇一九)、「江戸落語で知る
四季のご馳走」(平凡社/二〇一
九)、「大人の落語評論」(彩流社
/二〇一四)他がある。

お問い合わせは…

日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

落語 演目・用語事典

定価(本体8,000円+税) ISBN978-4-8169-2861-1

冊



9784816928611

んに育てられた。嘉吉が死に、残っていた十五両の金が欲しい常吉は、悪い仲間と共謀し、おせんを騙して法華講(ぼつげこう)に参加する。「解説」平岩弓枝(作)、八代目林家正蔵(口演)の新作の人情噺。「登」おきん、おせん、旅人、太兵衛(たへえ)、常吉(つねきち)、螻の千吉(まむしのせんきち)「キ」風車、継母、身延(みのぶ)

かじかざわ【鹹沢】「長短」長

「梗概」身延参詣の新助が山の中で雪に降られる。ただり着いたあばら家には、妖艶な女がいた。「解説」三遊亭圓朝が三題噺で作った。現在でもよく演じられている人情噺。「登」お熊(おくま)、新助(しんすけ)、伝九郎(でんくろう)「フ」亭主は熊の膏薬売り。まったく、亭主が外で働いているのに、女房は家で玉子酒か。「キ」種ヶ島(たねがしま)、玉子酒、身延(みのぶ)

かじむすこ【火事息子】「長短」中

「梗概」神田三河町の質屋の息子、徳は火事が好きで、火消しになりたいと家を出て行く。数年後、近所で火事があり、番頭が蔵の目塗りをするがうまくゆかない。そこへ一人の臥煙(がえん)が屋根を飛んで現れる。「解説」六代目三遊亭圓生、八代目林家正蔵らが演じて、現代にも受け継がれている人情噺。臥煙は定火消しの人足、町火消しと違い町人には嫌われ者だった。「登」父親、徳(とく)、母親、番頭、丁稚、手代「フ」画面が使えぬ。番頭さん、折れ釘にぶらさがっています。お小遣いはいくらくらい捨てましたよか。「キ」臥煙、火事、蔵

かぜのかみおくり【風の神送り】「長短」中

「梗概」風邪が流行しているので、町内の若い者たちが「風の神送り」をやることになった。「解説」上方落語。東京では、八代目林家正蔵が演じていた。「登」伊勢屋(いせや)、伊丹屋(たまや)、尾張屋(おわりや)、風邪の神様、葉屋、町内の若い

「演目事典」より

「用語事典」より

◇かいらうどうけつ(つ)のちぎり【借老同穴の契り】
 (慣用句)二緒のお墓に入る約束。(演)「たらちね」

◇かえりぐるま【帰り車】
 (用語)家に帰る途中の車。方向が同じなら割引料金で乗せてくれた。(演)「代り目」

◇がえん【臥煙】
 (用語)定火消し配下の火消し人足。体中べた彫りの刺青で、頭は奴銀杏、白足袋に切りたての六尺を締めさらしの腹巻に屋敷の法被。町火消しは刺し子を着るが、臥煙は頭巾も被らず屋敷の法被。杖で消火に当たるホントの命知らずの男たち。ただし、任務は江戸城を火災から守ること。町屋の火災は放置か、むしろ破壊消火で類焼防止のため容赦なく壊したので、町人からは嫌われた。臥煙になるには厳しい条件があり、「江戸っ子」「背が高い」「三男ぶりがいい」、四色白、五腕力、この五つの条件が揃わないと採用されない。肝心の力が五番目で、カッコよきのほうが優先する。(演)「火事息子」

◇かえんだい【火焔太鼓】
 (文学・演劇・音曲)雅楽に用いる楽器。太鼓のまわりを火焔の装飾で飾つてあるもの。(演)「火焔太鼓」

◇かおしようろちしん【花和尚魯智深】
 (人名)「水滸伝」の登場人物。豪快無敵の破戒僧。重さ六十四斤の禅杖が武器。(演)「弥次郎」

◇かおのうらおもてがわからない【顔の裏表がわからない】
 (慣用句)不細工。(演)「妾馬」

「キーワード索引」より

蚊	→二十四孝	96	駕籠屋	→煙	
会社	→妻の酒	89	傘	→ちき	
怪談	→年枝の怪談	99	火事	→【別】 雨のち	
怪談噺	→お化け長屋	52		→心中時雨傘	
	→【別】 借家怪談 (上方)	52		→うそつき弥次郎	115
	→二つ面	105		→お七	50
戒名	→万金丹	111		→火事息子	55
買い物	→壺算	89		→首提灯	62
替え玉	→三国志	72		→首ったけ	62
臥煙	→火事息子	55		→さんま火事	73
案山子	→二人旅	97		→心中時雨傘	79
鏡	→松山鏡	111		→富久	93
賭け	→そば清	82		→ねずみ穴	99
	→試し酒	86		→反魂香	102
	→四人癖	120		→【別】 火の用心	50
駆け落ち	→髪結新三	57		→弥次郎	115
	→【別】 恋娘昔八丈	57		→紙入れ	57
掛け軸	→一目上がり	103		→干物箱	104
掛取り	→掛取万歳	55		→紀州	59
駕籠	→紀州	59	貸し本屋	→うどん屋	47
	→くも駕籠	63	鍛冶屋	→【別】 風邪うどん (上方)	47
	→蔵前駕籠	63	風邪	→風の神送り	55
	→【別】 住吉駕籠 (上方)	63	家族	→長い夜	94
			片想い	→磯の鮑	43
				→【別】 わさび茶屋 (上方)	42